

鉄道駅内の昇降装置の設置効果に関する調査分析

中部大学 正会員 磯部 友彦

1. 研究目的

平成 12 年に「交通バリアフリー法」が施行され、鉄道駅においてバリアフリー化が進められている。しかし、既存の駅に昇降装置を設置するにあたって新たな問題が生じたり、利用者の意見の取り入れが不十分なために使い勝手が悪化したりする場合もあり、利用者に使いやすい整備のあり方を確立する必要がある。そこで本研究では、鉄道駅内での昇降装置の設置が完了した愛知県内の 4 駅を対象として利用者に対するアンケート調査を実施し、利用者の観点から見た各昇降装置の評価、現状を把握し、鉄道駅内での昇降装置の設置の方向性を考察する。

2. 駅利用者に対する昇降装置の利用実態調査の概要

愛知県内の 4 駅を対象として実施した。調査員 3 名により改札口前で改札に入っていく人、出てくる人に直接アンケートを配布し後日返信用封筒にて返信してもらった。調査日は、平成 16 年 11 月 15 日 A 駅、11 月 17 日 B 駅、11 月 19 日 C 駅、11 月 29 日 D 駅で実施した。いずれも土曜、日曜を除いた平日で行った。調査時間は 10 時～13 時までと 15 時～18 時の 1 日 2 回で行った。対象駅の概要とアンケートの配布数、回収率を表 1 示し、アンケート調査の項目と内容を表 2 に示す。

（表 1 の 1 日乗降客数は平成 11 年の人数）

表 1 対象駅の概要とアンケートの配布数・回収率

	1日乗降客数	配布数	回収数	回収率(%)
A駅(H15年度BF化完了)	約1万人	180	67	37
B駅(H9年度BF化完了)	約6千人	147	70	48
C駅(H12年度BF化完了)	約1万人	266	105	39
D駅(H15年度BF化完了)	約2万人	70	29	41

表 2 アンケート調査での主な項目と内容

項目	内容
①利用者属性	性別・年齢・移動制約の有無等
②昇降装置の評価	「エレベータ」「エスカレータ」「設置場所」について 5 段階評価
③昇降装置の利用について	利用状況、使わない理由等
④昇降装置等に対する要望	自由記述による昇降装置への意見・要望

3. 駅利用者による昇降装置の評価

調査票配付時間帯を昼間時に設定したために、利用者属性は各駅とも 7 割近くが女性であり約 5 割が 50 歳以上であった。また、移動制約がある人も全体で 1 割程いた。

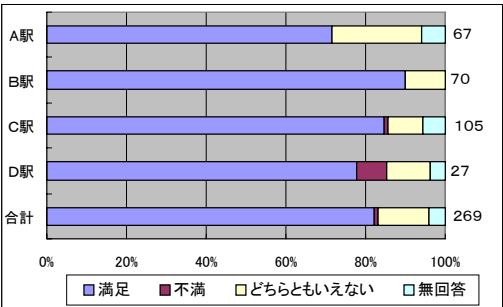


図 1 エレベータの満足度評価

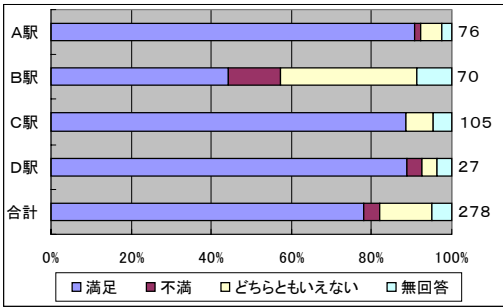


図 2 エスカレータの満足度評価

図 1、図 2 には駅別に見た各昇降装置を設置した事に対する利用者の満足度評価を示す。図 1 よりエレベータの設置に対して全体的に 8 割近くの人が満足しているという事がわかった。A 駅で若干満足という回答が少なかったのは、設置場所に問題があると思われる。図 2 よりエスカレータの設置に対しても、8 割近くの人が満足しているという事がわかった。B 駅で満足という回答が少なかった理由として、設置状況に問題があると思われる。これらのことから、昇降装置を設置する場合、設置場所・整備状況等を考えて設置する必要があると考えられる。

図 3 は「年齢別のエレベータの利用頻度」で、エレベータの利用頻度では、20 歳以下でエレベータを利用しない傾向が見られる。これは、若い人は体力的に余裕があるため、移動に時間がかかるエレベータは利用せず、階段またはエスカレータを利用すると考えられる。また、高齢になるにつれ「利用する」という人の割合が増える。

キーワード 交通バリアフリー、鉄道駅、エレベータ、エスカレータ、満足度評価

連絡先 〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200 中部大学工学部都市建設工学科 Tel : 0568-51-9543

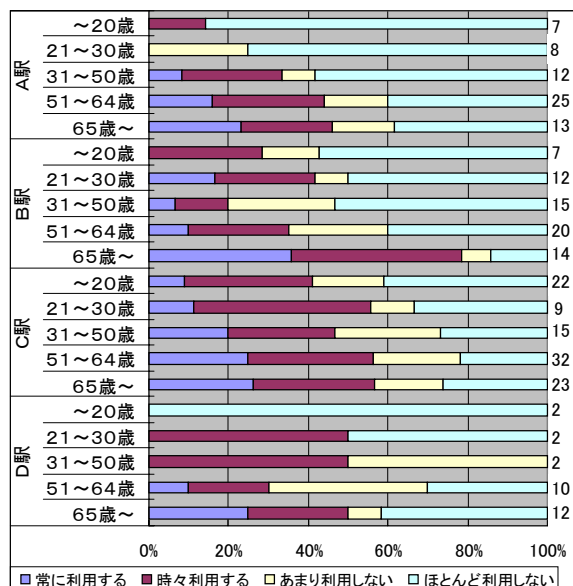


図3 年齢別のエレベータの利用頻度

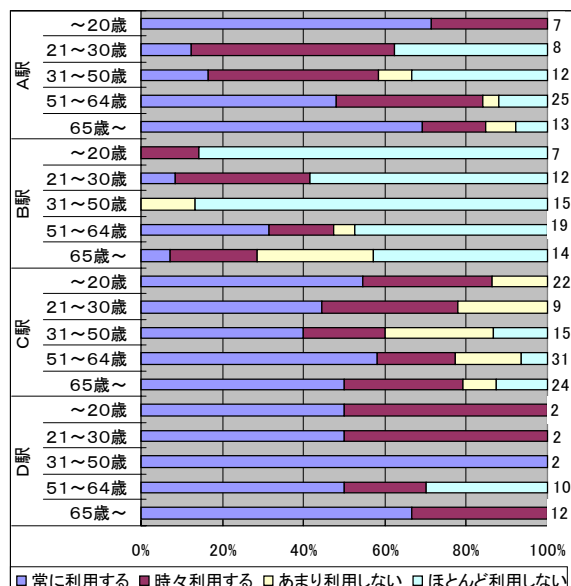


図4 年齢別のエスカレータの利用頻度

図4は「年齢別のエスカレータの利用頻度」で、A駅・C駅・D駅の3駅では全ての年齢層でエスカレータを「利用する」と答えている。特に若い人に「利用する」という回答が多い。「ほとんど利用しない」と答えたのは高齢者層に多い。また、D駅では「利用しない」という回答が少なく、B駅を見ると全ての年齢層でエスカレータを「利用しない」という傾向が見られ、これはエスカレータの設置状況が原因だと考えられる。しかし、そんな整備状況でも「常に利用する」と回答する人もおり、エスカレータが全く必要とされていないという事ではない。

図5は昇方向エスカレータ上での歩行に対する回答者の意識で、若い年齢層では比較的「速く移動できるので良い」と考える人が多い。特に21～30歳の方は「やめてほしい」という回答が2割程度と少なく「速く移動できるので良い」という回答が7割以上である。これは、歩いた方が速く移動できるからだと考えられる。しかし、30歳以上の方を見ると「やめてほしい」という回答が5割を超えており、その割合は高齢者になるにつれて少しずつ高くなっている。これは隣を歩かれることで危険を感じるからではないかと考えられる。今までは急ぐ人の為に片側を空けることがマナーと考えられていたが、今回の調査の結果では、駅による違いはなく約半数の人がやめてほしいと感じており、特に高齢になるにつれ、この考え方が人が増えていく傾向が見られた。実際に高齢者・障害者の方には「エスカレータで歩かれると、後ろから突き飛ばされそうになる」と苦情を出す人も少なくない。長年の慣習を変えることは難しいことかもしれないが困っている人の為にも、せめて混雑時のエスカレータ上での歩行はやめるべきであると考えられる。

4. 結論

エレベータの利用者数は少ないが高齢者や移動制約のある人など本当にバリアフリー整備を必要としている人が多く利用しており、設置によるバリアフリー効果は非常に高いと思われる。エスカレータは、一般の利用者には段差解消として効果は高いが、移動制約のある人にとっての効果はあまり期待できない。また、エスカレータ上での歩行は、せめて混雑時やめるべきである。以上より、比較的用户者の少ない小規模から中規模の駅であればエレベータのみの設置でバリアフリー整備は十分であると考えられる。

謝辞：快く調査にご協力いただいた鉄道事業者各社にお礼申し上げます。

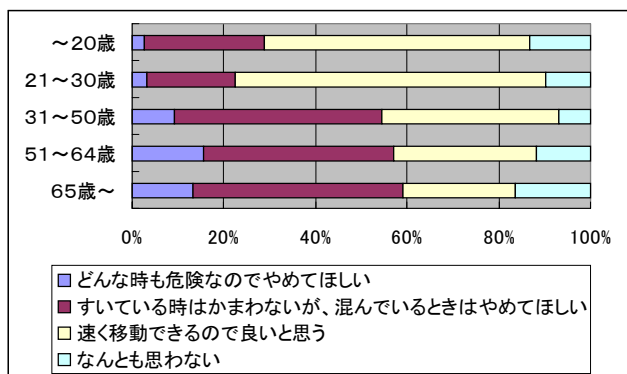


図5 昇方向エスカレータの歩行について